

労働安全衛生

すべての従業員が健康で安全に働くことができるように快適な職場環境の形成に努めています。

労働安全

2007年より「適正な保護具の着用」、「(点検等)作業時における回転体の停止」、「手順書の遵守」を基本的な安全ルールとし、協力会社も含めその周知徹底に注力してきました。安全ルール違反による労働災害には十分な原因解明を行い、他箇所にも横展開して類似災害の撲滅に努めています。その結果労働災害全体の中で安全ルール違反の占める割合は以前の40%から10%程度に減少することができました。今後も撲滅を目指して継続的な取り組みを行います。



集合安全教育

労働衛生

従業員の健康被害の未然防止のため、粉体や新規の化学物質を取り扱う際の作業環境の改善に取り組んでいます。特に研究所においては生理活性の強い物質や発ガン性が疑われる物質を扱うこともあるため、事前に化学物質の安全性評価とリスクアセスメントを実施し、局所排気設備の強化や施設の密封化を行っています。

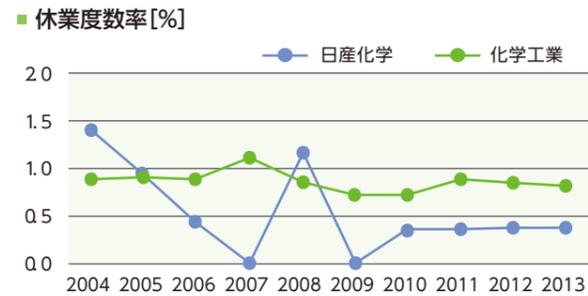


特定化学物質用ドラフト

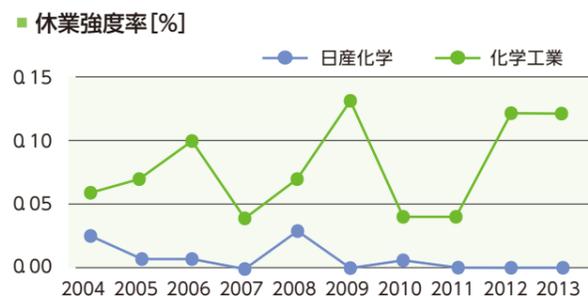
安全成績

2013年度は、日産化学工業として1件の休業災害と7件の不休災害が発生しました。これは前年に比べて休業災害は同じ件数ですが、不休災害は1件増加しています。休業災害は躓き転倒による骨折で重篤な労働災害の発生はありませんでしたが、ここ最近転倒やぎっくり腰の発生が多いため、始業もしくは昼休み明けのラジオ体操の励行を推進しております。

安全成績は度数率、強度率とも業界平均よりは低い値で推移していますが、ゼロ災を目指してさらなる安全活動に取り組んでいきます。



度数率 = (休業災害被災者数) ÷ (延労働時間) × 1,000,000



強度率 = (労働損失日数) ÷ (延労働時間) × 1,000

保安防災

火災、爆発、有害物質の漏洩などの保安事故を未然に防止し、大規模災害発生時の被害を最小化します。

保安防災

安全確保は生産活動の基盤であり「安全・安定操業」を最重点事項と位置付け、関係会社や協力会社と一体となって安全確保と安定操業に取り組んでいます。

安定操業の確保を目的に、プロセスKY (危険予知)、設備KYなどの教育訓練および製造事前評価を行い、また計画的な設備投資や設備保全を行っています。

また、他社において化学プラントの事故が多発していることを鑑み、同様な事故を起こさないように事故報告書の検討や事故類似箇所の再点検を実施し、保安力の向上を図っています。



ナフサ移送取扱所防災訓練

緊急時の対応

工場ならびに研究所では、各箇所の立地や地域性を考慮して緊急時の規程を策定しています。その規程に基づき地震防災、初期消火、連絡通報などの各種訓練を毎年実施し、緊急時に確実な対応が取れるよう備えています。また、全ての箇所にはAEDを設置し、社員への救命講習の受講を推進しています。



消防操作法大会

物流安全

物流業務を担う関係会社である日産物流(株)とともに製品の流通過程における安全確保と事故時の適切な対応に取り組んでいます。容器や包装品ラベルに国連番号および指針番号を追加表示した容器イエローカードの導入を進めています。また、ローリー輸送時には常時イエローカードを携帯するように運転手に指導しています。

日産物流(株)が定期的に公設消防と合同で実施する訓練には日産化学も参加し、輸送事故発生時の対応を確認しています。



輸送事故対応訓練



イエローカードと容器イエローカード

Topics

消防庁長官賞受賞

埼玉工場は「平成25年度優良危険物関係事業所消防庁長官賞」を受賞しました。

1988年7月の重油流出事故を教訓とし、再び危険物事故を起こさないという強い決意の元、諸先輩方の地道な安全活動の積み重ね、無事故・無休業災害の継続が評価されました。



社会に貢献する製品
 CURAMAX
 レスポンシブル・ケア活動
 「消費者・顧客との関わり」
 ステークホルダーとともに
 「労働慣行」
 ステークホルダーとともに
 社会との対話
 サイトレポート
 ISO26000 中核課題対照表